



～未来の地域を創るのは若者たち？～

2月17日（金）宿南地区自治協議会で、文化芸術観光専門職大学の地域創生実習のため、2年生の女子学生4人を受け入れました。実習の内容は「但馬地域自治体が抱える課題及び自治体の業務内容を知り、課題解決への事業提案を行う。」というものです。

午前中は、事務所内で、宿南地区の現状と地域活動の取り組み状況について説明をして、午後からは各地区を回り、癒しの里山プロジェクトで取り組んだ里山の遊び場“u s j”を見学して、学びの里宿南プロジェクトの基盤となる青谿書院では池田草庵先生や門下生が歴史的に活躍している事などを紹介して地域の様子を見てもらいました。事務所に戻ってからは、この3年間コロナ禍の影響で地域コミュニティが沈滞化していることから、今後の地域活性化に向けての提案等についてディスカッションしました。専門職大学は1学部1科で芸術、文化、観光を結び付けて地域創生を考えられる人材育成をされており、去年は、名草神社の完成式や各地域行事の企画運営などにも参画されたようでしたので、宿南地区のこれからの行事などにも参画してもらえるか尋ねたところ、「ぜひ、声をかけてください。」との力強い返事がもらえました。若い人たちとの交流により地域が元気になると希望に胸を膨らませたのですが、最後に、「外の力に頼っていたのでは、根本的な解決にはならない。学生が関わるのは一過性のものであり、そこに住む人たちが、もっと話し合い、自分たちの地域に誇りを持つことや自分たちがやろうと思えることが大切。」「住む人が生き生きとして、魅力的なところにしていくためには、地区内の人々が対面して話をすることが大切。」という意見がありました。今後、皆さんと一緒に学生さんも交えて、宿南地区の未来について、楽しく語り合う機会を作っていきたいと思いました。



「学びの里 宿南」の看板新調!!

ふれあい倶楽部広場と宿南小学校体育館横に立ててあった木製看板が劣化のため、学びの里プロジェクト事業で新調しました。これを機に地区の皆さんが、宿南が学びの里であることに誇りをもてるといいですね。近くを通られましたらぜひ見て下さい。



身近で見られる植物 ②②

ヒサカキ〈ツバキ科〉

1月、2月に紹介したヤブツバキとアセビの花は、今が最盛期の様です。今回紹介するヒサカキは、ヤブツバキと同じツバキ科の常緑小高木で、この辺りでも里山の林内に多く見られる樹木です。(近年鹿の食害に遭い減少気味です)雌雄異株で花は小さくたくさん着きます。(写真はまだ蕾ですが3月末には開くでしょう)神様にも仏様にも供える事ができる万能供花です。但馬では、ヘダラとかセンダラシバとかと呼ばれています。葉を焙じてお茶にすると独特の風味があり美味しくいただけます。



ふれあいの日からのお知らせ

三月、お出かけにピッタリのおしゃれなポシェットが出来ました。

次回、4月12日(水)は、おざぶに座ったネコちゃん

を計画しています。

お立寄り下さい。



AED 設置場所 屋外へ

いざという時にいつでも使用できるように“ふれあい倶楽部 玄関横”に移動しました。



お知らせ
3月23日(木) 宿南小学校卒業式
3月24日(金) 宿南小学校修了式
3月26日(日) 落語会(たんたん落語会・たんたん笑年団)
3月28日(火) 春休みこども青谿書院塾(宿南ふれあい倶楽部)

4月7日(金) 宿南小学校始業式
4月10日(月) 宿南小学校入学式



草庵先生紹介

日記 49



暑さの中、青谿書院の部屋で静座する池田草庵

宮崎和夫さん作

今年の夏も暑い。池田草庵の時代もやはり夏は暑かった。体のあまり丈夫でなかった草庵は、暑さは身にこたえているが、それには負けていなかった。

「(前略)午睡する。目覚めると大変暑くて困った。しばらく黙座をする。夕方、片山(実家)に行き浴湯。夜になって帰院。塾生に『近思録』を講義する。この日、『易』6ページ余り読む。10時頃就寝」(嘉永元(1848)年6月29日)

この日記は、青谿書院ができて間もなくの頃書いたものだ。昼寝から目覚めた草庵は暑くて困っている。それでも黙座をしている。夕方には、実家に行き風呂に入って汗を流したのだろう。夜には書院に帰り講義をし、読書もしている。「早起。講義は『左伝』。授読4人。午睡。講義は『尚書』。(中略)。この日の読書は、『左伝』4ページ。夜、暑さ当たりの気があり早めに就寝」明治3(1870)年6月29日)

「暑さ当たりの気」というのは、今で言えば熱中症気味のような状態だろうか。青谿書院のどの部屋に行っても暑いことから、暑さを避けることはできなかつたろう。そんな中で、塾生に講義をしたり、一人座って読書をしたりしているのだ。

「偉業餘稿」の中に、「盛夏炎暑」という言葉で始まる文章がある。それは、暑さの中でもやる気を出そうと塾生に語っているのだ。「盛夏炎暑、日光は焼け付くように照っている。こんな時、静座をしばらくしていると、体中に汗が流れてくる。これをしばらくがまんして、苦しさを味わうことによってやる気高めることができる」(「偉業餘稿」67条から)

「日光が焼け付くように照っている」日だ。座っていても汗が噴き出してくる。しかし、それをしばらくがまんしているとやる気も高まってくる、と草庵は塾生たちに語る。

汗がでてくるとすぐに扇風機だ、クーラーだ、と言いたくなる者には、厳しい草庵の言葉だ。

池田草庵先生に学ぶ会